

美術科 学習の手引き

1 ふだん家庭でできる勉強

<美術鑑賞>

TV視聴 美術に関わる番組の視聴

日曜美術館や芸術に関わるものの番組がたくさんあります。絵画・彫刻に限らず、建築やデザインなど、美術番組以外にも勉強になる事が多いので興味があれば視聴してください。

美術に関わる書籍類を見る・ながめる・読む

美術全集や画集があれば良いが、新聞の日曜版などに載っている作品やその解説などを読むのも良いでしょう。また、ファッションやインテリアなどデザイン関係の本でもかまいません。

休日など、美術館や博物館、市内にある彫刻や画廊などを巡る。

美術館に限らず、彫刻作品など市内にはたくさんあります。探してみましよう！

<作品制作>

スケッチ

自画像や家族、動物のスケッチ。植物や風景のスケッチなど。

特にかしこまらず、気軽に見えたものを表現すると良いでしょう。落書きでもいいです。

(公共物には絶対に落書きしないこと。広告の裏や不要な紙に描きましょう)

作品制作

鉛筆画・水彩画・油絵・工作・彫塑など、特に関心のある人はチャレンジすると良い。

鉛筆や筆を使わなくとも、最近では、コンピュータでも絵が描けます。

マンガ・イラストの好きな人は、その表現も美術である。

漫画を描くのも、ノートにきれいに名前をレタリングするのも美術です。

何もなくても、ものを観察しポケットの中で指で形を描くこともできる。

<その他>

服を着るとき、そのコーディネートや、髪型、ファッションを考えることも美術である。

部屋の模様替えや、装飾を考えることも美術である。

食事の盛りつけや色彩を考えることも美術である。

夕日や、風景を眺めたり、庭の植物や昆虫を観察して美を感じることも美術である。

散らかったゴミや汚いことに嫌な思いを感じたり憤りを感じることも美術である。

2 試験前の勉強法

授業で説明したことや、実技で行っていることをテストに出題します。

特別な取り組みは必要ありませんが、教科書や美術資料集から様々な作品について出題することが多いので、本をよく読みましょう。また、表現された作品について自分なりに感じたことを大切にしましょう。

必ずではありませんが、40点ほどの配点で「実技テスト」を行います。

「鏡を見て、鉛筆で自画像を描く」「篆書体ではんこのデザインを考える」

「透視図法で作図する」「何かの図案を考える」「自分の手を描く」

「レタリングの実技」「模写(テストに印刷された作品を模写する)」など

実技も、授業で行ったことに関わるテストを行うことが多いと考えてください。

3 長期の休み（夏休みや冬休み）だからこそ挑戦しよう

公募展 = ポスターや絵画作品の募集があります。別紙で案内しますので、挑戦してください。
思わぬ副賞がもらえる場合もあります！

美術室の前の廊下に、公募展のポスターを掲示しますので見てください。

例年公募されるもの（夏休み）

八木山動物公園写生大会（夏休み中に動物園で動物の絵を描く）

夏休み中、いつでもかまいません。画用紙は無料で配布されます。

仙台七夕祭り絵画コンクール

その年の七夕祭りを絵画で表現します。

東北生活文化大学高校「中学生美術コンクール」 「テーマ：顔」

防犯ポスターコンクール

防火ポスターコンクール

明るい選挙ポスターコンクール

土砂災害防止ポスターコンクール

など 他にもたくさんありますので、興味のある人は先生に聞いて下さい。

大きさ = B3（または四切）

画面は縦・横自由（画用紙，ケント紙など自由）

ポスターは縦書きが普通です。用紙などない場合は差上げます。

4 美術の評価

制作物などによって多少の違いはありますが、下記の観点で評価しています。

美術の観点 関心・意欲・態度

忘れ物をせず、授業に集中し、作品を最後まで仕上げ提出しているか。

発想や構想の能力

豊かな発想（アイディア）で、他にない、自分らしさを出そうとしているか。

創造の技能

表現力が豊かで、自分の思いを表現しようとしているか。

用具の使い方や、特性を生かしているか。

鑑賞の能力

自他の作品の良さを味わおうとしているか。作品を大切に扱うことができるか。

制作に関わる鑑賞では、その作品の技法や制作上の注意を読み取ることができるか。

定期考査も評価に入りますが、一番重視しているのは日々の授業で行っている作品制作や鑑賞です。テストが100点であっても、作品を提出しないと評価は低くなると考えて下さい。

その他

身のまわりの形あるものは全て美術です。色々なことに関心を持つと良いと思います。
美術を通して、豊かな情操を育むことができることが先生の願いです。